

3月発売予定

桃山・江戸時代初期の大大名の茶の湯 矢部誠一郎編

菊判並製二〇〇頁(口絵カラー八頁)

定価(本体3,500円+税)

ISBN978-4-8016-0059-1

茶の湯は有力大名にどのように浸透したか？

豊臣期は、千利休が秀吉の茶堂となり、社交ツールとして茶の湯文化が発達、数多くの武将茶人が生まれた時代だった。本書では、これまで研究が少なかった島津義弘、毛利輝元、蜂須賀家政、前田利家・利長、伊達政宗、佐竹義宣の諸大名について、利休・織部らとの茶の湯交流の実際から、江戸初期の薩摩・長州・徳島・加賀・仙台・秋田藩での茶の湯振興に至るまでを論考する。

目次

- 島津義弘と茶の湯—— 田村省三(尚古集成館館長)
- 毛利輝元と茶の湯—— 矢部誠一郎(元玉川大学文学部教授)
- 蜂須賀家政と茶の湯—— 須藤茂樹(四国大学文学部日本文学科講師)
- 前田利家・利長と茶の湯—— 北春千代(石川県立歴史博物館学芸主幹)
- 伊達政宗と茶の湯—— 小井川百合子(元仙台市博物館副館長)
- 佐竹義宣と茶の湯—— 矢部誠一郎(元玉川大学文学部教授)

編者プロフィール

1941年生まれ。國學院大學大学院文学研究科日本史学博士課程満期退学。2012年まで玉川大学文学部教授、鎌倉女子大学教授を歴任。著書に、『日本茶の湯文化史の新研究』(雄山閣)、『利休随一の弟子三斎細川忠興』(宮帯出版社)など多数。

好評発売中

エピソードで綴る 戦国武将茶の湯物語 矢部良明 著

四六判並製三〇四頁(口絵カラー二〇頁) 定価(本体2,700円+税)

ISBN978-4-86366-921-5

ISBN978-4-86366-921-5

教養豊かな戦国武将たちによる、「名物」を駆使し、「創意」に満ちたその茶の湯とは、いったいどのようなものであったのか。歴史の変遷を背景に、武家茶の湯が扱って立つ立脚点を解き明かす。50人以上の戦国武将茶人を取り上げた決定版。

著者プロフィール

一九四三年神奈川県生まれ。東北大学文学部美術史料科修了。人間国宝美術館館長、東京国立博物館名誉館員。主な著書に、『千利休の創意』(角川書店)、『古田織部』(角川書店)、『武野紹鷗』(淡交社)、『茶人豊臣秀吉』(角川書店)、『茶の湯の祖 珠光』(角川書店)、『茶入物語』(戦国武将茶の湯物語) (宮帯出版社)、編著に、『角川日本陶磁大辞典』(角川学芸出版)など多数がある。



注文書

発行 (株)宮帯出版社 京都市上京区真倉町739-1

TEL(075)441-7747 FAX(075)431-8877

桃山・江戸時代初期の大大名の茶の湯

矢部誠一郎編

ISBN978-4-8016-0059-1 C3021 ¥3500E

本体3500円+税

年 月 日

エピソードで綴る

戦国武将茶の湯物語

矢部良明 著

ISBN978-4-86366-921-5 C0021 ¥2700E

本体2700円+税

年 月 日

書店(帳合)印

発売中(返条付)		3月発売予定(委託)	
注文数	担当	注文数	担当
冊	様	冊	様
書名		書名	

(株)宮帯出版社

京都市上京区真倉町739-1
TEL(075)441-7747

www.miyaobi.com
FAX(075)431-8877